



さ

ぎょう

りょう

ほう

作業療法紹介



外来の作業療法



発達障害、脳性麻痺、神経筋疾患、脳症後遺症など、様々な子どもたちに対して実施しています。

- ・ 就学前の子どもたちを中心に、身体機能面への働きかけはもちろんのこと、学習につなげる能力や集団生活へつながる能力への働きかけも行っています。
- ・ ダウン症の子どもたちに対して、診察室へ同席し、ホームプログラムなどの提案を行っています。
- ・ 早産低出生体重児の赤ちゃんに対して、乳児期から感覚・認知機能、運動機能への発達評価と支援、家族支援を行っています。
- ・ 親子での遊びを利用した家庭療育の方法などを紹介したリーフレットを作成しています。



入院児への作業療法

拓桃館

脳性麻痺や小児整形外科疾患などの子どもたちに対して、**COPM**を活用し個々の目標に向けて病棟や学校、保育など他職種連携を図りながら支援しています。食事や更衣等のADLのほか、二分脊椎症児の清潔間欠自己導尿、電動車椅子駆動に向けた手技・操作の獲得、就学に向けて視知覚認知機能の評価や学習環境の調整、ICTの活用や在宅移行支援などにも取り組んでいます。



本館

急性期からリスク管理下での作業療法を実施しています。また、長期にわたって治療のために入院している子どもたちに対して、「遊びたい!」「やってみたい!」を引き出しながら発達支援を行っています。

親子入所

発達支援、家族支援を行っています。近年は、偏食のある子どもたちへの介入が増えており、作業療法の視点で評価を行い、他職種と連携した支援を行っています。

NICU

ディベロップメンタルケアに基づき、早産低出生体重児に対する発達評価や介入を主に実施しています。環境適応に向けての感覚面の評価や長期入院児の発達支援を行っています。

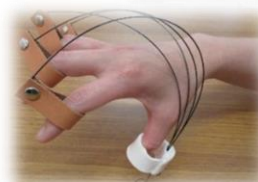
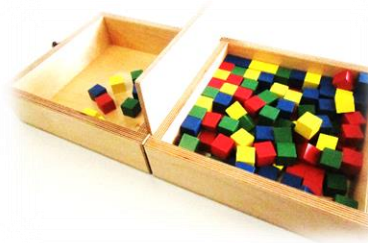
感覚統合理論に基づく療法

発達を捉える視点の1つとして、感覚面の発達を行動の背景として用いています。子どもたちの行動や反応から、自分自身や環境の認識・適応・学習などの基礎的な能力へ働きかけしていきます。



小児に対するCI療法の実践

学習によって獲得した機能を、主体的に日常生活で活用する行動変容を目指すCI療法を、片麻痺の子どもたちを対象に1～2週間の入院にて実践しています。



手作りおもちゃ



子どもたちひとりひとりに対応する、使いやすい物を提案・作製しています。



学習用具

日常生活の「困った!」を解決できるよう、便利な道具を提案・作製しています。



自助具